

2025年6月16日（月）

老球の細道 872号

ミニバスケットボール（U-12）サマーカップ会津地区予選観戦雑感

会津バスケットボール協会 室 井 富 仁

寒暖の変化が続く連日、不覚にも風邪をひいてしまった。熱はないが夜中に咳が止まらず、これまた不覚にも病院のお世話になることになった。風邪の時に行く病院の先生は毒舌であるが、腕は良く、病院はいつも患者でいっぱいである。昨今のコーチ界では毒舌はパワハラ的要因になり、選手への言葉かけにも神経を使う時代であるが、この先生の心温まる毒舌の使い方を学びながらミニバスの大会会場へ通い続けた。

新年度に入って初の公式戦であるが、選手の移籍などもあり、かなり順位の入替えがあったようである。優勝した男子、磐梯チーム、女子、猪苗代チーム共に断トツの強さを見せた。各メンバーが優れた個人技を持ち、走力もあり、チームの構成もメンバーが豊富でバランス良く組織されていた。共に県大会上位進出が期待される好チームであった。

また、2位から5位くらいまでは次の大会どこが勝ち上がるかわからない混戦であった。どのチームにも長身者がいるが、走れて、ボールハンドリングに優れた長身者が多く、これからの成長が楽しみなダイヤモンドの原石にたくさん出会うことができた。

バスケットボールのゲームにおいて何と言っても面白いのは、番狂わせを起こすこと、接戦を勝ち切ることだと思う。このようなゲームが歓喜の涙を流し、人生を変えてくれる。ただし、このようなゲームを勝ち切るにそれ相応のプレッシャーを乗り越えなければならないし、長い時間をかけての練習による準備が必要となる。運、神様、仏様は基本的に頼りにならない。頼りになるのは普段の練習だけである。

いざという時の1本のフリースロー、いざという時の1本のパスミス、いざという時の1本のリバウンド、すべて日常の練習が顔を出す。「いざという時に日常が」「練習は嘘つかない」等の箴言は常に肝に銘じなければならない。

閉会式において、次なる大会へ向けてのメッセージを話した。仕切り直しをして、改めて自分達の日常の練習を問い直してほしいと。練習はなんのためにやるのか。自分達より強い相手に勝つためであり、自分自身の心技体の向上のためである。勝利を目指した真剣勝負から、勝っても負けても多くのことを学ぶことができる。感激、悔しさが人間を成長させる。

練習の目標は何か。具体的なスキル、戦術の他に、基本的な目標は「良い習慣を身につけること」。悪い習慣（声の出ない練習等）のもとでいくら練習しても努力が悲劇になるだけである。また、練習はできることの繰り返しではない。新しいことへの挑戦である。新しい挑戦が選手をワクワクさせ毎日の練習を楽しみにさせてくれる。

練習の目的、目標を達成するために、日々どのような態度で練習に臨むのか。手抜きをしないで全力で取り組む、集中する、頭を使う、そして声を出して笑顔で楽しく（悲劇の主人公にならない）取り組むこと。何事も楽しんでやっている人にはかなわない。

「誰でも勝ちたいと思っている。だが、そのために頑張れる奴はいない」〈ボビー・ナイト〉